

地獄^{じごく}に行った吉兵衛^{きちべえ}さん

(滋賀^{しがけん}県)

むかし、あるところに、吉兵衛^{きちべえ}さんという人がいました。いつもおもしろいことばかりして、気楽^{きらく}に暮^くらしていました。そのうちそれにもあきて、何かもつと変^かわったことをしたいなあと思うようになりました。

あるとき、吉兵衛^{きちべえ}さんは、ふと、首つりをしてみようかと思いつきました。

「いいことに気がついた。これはきつとおもしろいぞ」

吉兵衛^{きちべえ}さんは得意^{とくい}になって、家のうらの柿^{かき}の木に細いなわをかけました。そして、台に上がって、

(いよいよ苦^{くる}しくなったら、なわをちよつとゆるめよう)と考えて、なわで首をくくりました。台をポンと勢^{いきお}いよくけつたら、からだがぶらんと下がって、なわをゆるめるひまもなく、そのまま死^しんでしまいました。

「しまった。死ぬはずじゃなかったのに」

いくら後悔^{こうかい}しても、しかたがありません。死^しんでしまったものはどうしようもないので、吉兵衛^{きちべえ}さんは、思いきりよくあきらめることにしました。そのとたん、なわが切れて、ドスンと落^おちてしまいました。見ると、足の下に道がずうつと続^{つづ}いていました。

「ええい、かまわん。行ける所^{ところ}まで行くぞ」

吉兵衛^{きちべえ}さんは、あてもなくどんどん歩いていきました。すると、道がふたつに分かれて、いる所^{ところ}に來^きました。

「どちらに行こうかなあ」

よく見ると、いっぽうの道はきれいな道で、もういっぽうの道は草が生^はえて石がごろごろしていました。吉兵衛^{きちべえ}さんは、きれいな道が極楽道^{*ごくらくみち}だろうと思って、そちらの道を歩いていきました。ずんずん行くと、がんじょうな門がありました。それは、地獄^{じごく}の入り口でした。きれいな道が極楽道だと思ったのはまちがいでした。地獄^{じごく}は、行く者^{もの}が多いので草が生えるひまがなく、極楽は、行く者が少ないので、草がおいしげっていたのです。

けれども、吉兵衛^{きちべえ}さんは、引き返^{かえ}すのもめんどうなので、なるようになれと、地獄の門をドンドンたたきました。すると、中から、

「だれだ」とどなる声がしました。

「吉兵衛です」

「吉兵衛が来るのはまだ早い。帰れ」

「でも、死んだので、来たんです。開けてください」

やっと門が開きました。吉兵衛さんが中に入ると、うしろでぴしゃんと門がしまりました。目の前に強そうな鬼おにが立っていました。吉兵衛さんは、やっぱり来るんじゃないかっただけだと思いましたが、いまさうどうしようもありません。

鬼は、吉兵衛さんをうす暗い部屋ぐらへやに放りこんで、

「そのうち閻魔えんまさまのお調べしらがあるから、それまでここで待まっておれ」といって、行ってしまう。ところが、つぎの日もお調べはありません。そのつぎの日、吉兵衛さんが、（なんとかしてここをぬけだして、もういっぺん生き返りたいなあ）と考えていると、赤鬼やら青鬼やら黒鬼やらが先さきに立って、ようやく閻魔さまがやって来ました。

吉兵衛さんは、ちょっと考えてから、いちばん前を歩いてくる赤鬼のそばへちよこちよここと行って、何やら耳打ちみみうちをしました。すると、赤鬼は、急きゆうにお腹なかをかかえて、ひっくり返って笑わらいました。吉兵衛さんは、こんどは青鬼のそばへ行って、また何やら耳打ちをしました。すると青鬼もころげまわって笑いました。そうやって、吉兵衛さんが耳打ちをすると、鬼はみなつぎつぎに笑いだし、とうとう閻魔さままでが笑いころげました。地獄じゆうが大笑いしているあいだに、吉兵衛さんは、いちもくさんに地獄から逃げだして、家に走ってかえりました。

吉兵衛さんの家では、もう吉兵衛さんのお葬式そうしきもすんで、きょうは、大勢おおぜいの人が集あつまって法事ほうじをしているところでした。そこへ吉兵衛さんが飛びこんできたから、みんなはびっくりしました。

「吉兵衛、おまえどうしたんだ。どこへ行ってたんだ。どうやって帰ってきたんだ」
みんなが口々くちぐちにたずねると、吉兵衛さんはいいました。

「いや、なんでもない。地獄へ行ったんだけど、帰りたくなってね。鬼に話をしたら、ひどく笑いだしたので、そのあいだに逃げてかえってきたのさ」といいました。

「へえ、鬼にいったいなんの話をしたんだ」

みんながたずねると、吉兵衛さんは、笑っていいました。

＊「来年のことを、ちょっと話ただけさ」
おしまい

＊ 極楽道 極楽へ続く道。「極楽」は、この世のすべての苦しみをはなれた安楽の世界のこと。浄土ともいう。

＊ 閻魔さま 生きていたときの行いを審判して、死んだ人に賞罰をあたえる地獄の王。

＊ 法事 人がなくなったあと、しのんで行う儀式。

＊ 来年のことをちよつと話した 見通しのはつきりしないことをいったとき、「鬼が笑う」とからかうことわざがある。

出典 『語りの森昔話集2ねむりねっこ』村上郁再話／語りの森